



## 高校図書館内居場所カフェ事業

特定非営利活動法人パノラマ

### 活動

#### 生徒との信頼貯金を貯める 校内居場所カフェ

経済格差が教育格差になっている事実が、学区ではなく学力で決まる高校で顕在化しています。神奈川県内のクリエイティブスクールには、貧困を背景とした様々な課題を抱える多くの生徒が在籍しており、校則違反や特別指導、単位不足などによる中退者が後を絶ちません。彼ら彼女らがその後の人生の困難に飲み込まれていくリスクが非常に高いと想定されるにも関わらず、高校内には、それら生徒を受け止める福祉的な支援体制が十分整っていない状況

#### Check!

##### <事業基本データ>

事業分野	子どもの健全育成
実施期間	2016～2018 年度
補助金額	計 4,350 千円

にあります。また、学校という所属を失うと、リーチする術がなくなるため支援の網に掛からなくなり、社会から見えなくなってしまう。

これらを予防するために、私たちは学校の中の生徒が集まりやすい図書館や多目的室を居場所カフェにし、お菓子やジュースを振る舞いつつ、他愛のない雑談を交わす中で生徒からの信頼貯金を貯め、支援可能な関係づくりをしています。

## 成果

### 地域の大人たちが生徒の「生きるストライクゾーン」を広げる！

カフェは毎週一回開かれ、平成30年度は2校で62回、述べ6,778名もの生徒が利用し、毎回大賑わいでした。私たちは、貧困により失われがちな文化資本を地域のボランティアの皆さんによる(時間も含む)富の再分配で補完することで、ヒト・モノ・コトの文化に触れた生徒たちに文化のフックをつくり、社会関係資本に引っかかる可能性を上げることで貧困の連鎖を断つことをコンセプトにしています。本年度は、403名もの先生でも親でもないちょっと変わったボランティア



▲明るく生徒たちを受け止めてくださる地域ボランティアさん



担当者のコメント

理事長  
石井 正宏 さん

貧困世帯の子供たちに対する自走可能な支援モデルとはどんなものなのか？子供たちを支え育むのは誰であるべきか？予算配分とは困難への格付けではないのか？皆さんと一緒に考え続けたいと思います。



▲文化のフックが芽生える浴衣パーティー

アさんたちと、生徒は出会いました。自分の親との違いや、想定外を生きる大人たちの人生から「生きるストライクゾーン」を広げ、自分の可能性に気づいてくれたらと願っています。カフェでガス抜きはできても課題の緩和や解決にはつなげきれないため、個別の相談に展開していきます。会ったこともないカウンセラーではなく、すでに顔見知りの大人に話せる安心感がソーシャルワークの可能性を広げ、学校を離れた後も支援が継続できる関係性を築くことで、孤立を予防しています。

NPO 法人 特定非営利活動法人  
パノラマ

代表者 理事長 石井 正宏

設立 2015年2月

住所 〒227-0061  
横浜市青葉区桜台 25-1 桜台ビレジ  
ショッピングコリドール R1

活動紹介 社会的孤立や経済的格差の要因となる高校生の中退や進路未決定を予防する校内居場所カフェや、中退後や引きこもってしまった若者の自立のきっかけをつくる居場所事業。



「居場所」と相談活動拠点開設を  
めざす他地域NPOの設立サポート  
特定非営利活動法人  
在日外国人教育生活相談センター・信愛塾

**活動** 在日外国人や外国につながる子どもたちが自分らしく生きられるために

在日外国人や外国につながる若者の定住傾向が高まるにつれ、DVや貧困、在留資格などの複雑な相談も増加しています。信愛塾ではそのような複合的困難を抱えた相談を年間 800 件受けており、同時に信愛塾が「居場所」を設けて行っている学習支援には年間延べ 2,200 人の児童が通ってきています。急増していく在日外国人と外国につながる若者たちが安心して暮らし、子どもたちがありのままの自分で過ごしていけるために、相談と学習支援を行える団体や場

所がますます必要とされています。

そこで基金 21 の支援を得て、他地域で相談や学習支援を行う団体の設立サポートをする事業を、「拠点開設のためのプロモーション事業」と「相談員を兼ねたコーディネーター育成事業」の 2 段階に分けて行いました。プロモーション事業は外国人支援を行っている団体や興味を持つ個人の発掘のためにリサーチや広報を行い、コーディネーター育成事業は信愛塾の現場を生かした研修とインターン研修を行いました。

Check!



<事業基本データ>

事業分野	団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助
実施期間	2018 年度
補助金額	計 800 千円

## 成果

### 「コーディネーター育成 フォーラム」の開催、 他団体の立ち上げ実現も

プロモーション事業を実施した結果、特に関心を持ってくれた藤沢市と協議を重ね、「コーディネーター育成フォーラム」の会場の提供と後援を得ることができました。フォーラムの開催は神奈川新聞や毎日新聞でも取り上げられ、結果として行政、議員、教育委員会、地域NPO、関心を持つ団体・個人など24名が参加しました。



▲フォーラムの開催は新聞でも取り上げられた



▲インターン研修では学習支援に参加してもらった

その後の信愛塾の現場を生かして行った育成研修には、活動に興味関心を持つ10名が、インターン研修には8名が参加しました。最終的にその中から金沢区で居場所を設け学習支援事業を行うNPOが1団体設立されました。他の参加者も、信愛塾が開催する研修などに今も参加し、知見を広め、各々が活動している場で活躍をしています。加えて藤沢市を始めとした行政や学校から研修依頼を受けるなど、ネットワークも広がっています。また、この事業で得られたノウハウやネットワークを生かし、設立の支援を継続して行っています。



信愛塾に来ることができない、支援を受けられていない子どもたちがとても多くいます。子どもや保護者がその人らしく、ありのままの自分で過ごしていけるよう、これからも支援拠点を増やす取り組みを続けていきます。



特定非営利活動法人  
在日外国人教育生活相談センター  
信愛塾

代表者 理事長 李明忠

設立 2004年11月

住所 〒232-0033  
横浜市南区中村町 1-1-12-101

活動紹介 外国籍や外国につながる子どもへの「居場所」を利用した学習支援と、その保護者を主な対象とした伴走型教育生活相談を、多言語・無償で行っています。



がん体験者によるがん患者のための  
ピアサポート活動の普及  
ピアサポートよこはま

活動

がんピアサポートの  
認知向上を目指して

がん体験者によるがん患者のためのピアサポート活動を行う「ピアサポートよこはま」は、平成 22 年の開設以来、医療現場では対応しきれない悩みに対して、体験者ならではの傾聴を中心に、がん患者とその家族に対して相談支援を行ってきました。

がん体験者が患者の心に寄り添うピアサポートは、医療的な支援とは別な意味で重要な支援とされながらも導入している病院はまだ少なく、ピアサポートの存在自体、認知度が低い状

況です。

必要としている人達に届くよう、「つたえる」ための広報活動、がん患者支援団体との連携をはかる「つなげる」活動に取り組み、ピアサポートの普及を目指しました。また、2015 年に自主運営となってから資金的に困難が続いてきたことから、財源づくりを視野に入れた仕組みづくりにも着手しました。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 保健、医療又は福祉の増進

実施期間 2018 年度

補助金額 計 121 千円

## 成果

### 広報ツールの充実 収益が出せる仕組み実現

2018年度は特に広報活動に力を入れました。わかりやすい新チラシを制作し、病院やイベントなどで広く配布(4,000部)しました。また、患者さん向けの小冊子を作成。患者の思い、患者支援等の情報を、手作りであたたかみのある読み物で個々に配りました。

隔月開催のサロンでは、おしゃべり会やワークショップ、勉強会などを企画。毎回チラシを制作し、2ヶ月前からの告知を徹底。サロンを有料化しつつも満席となり、収益が出せる仕組みを実現しました。



▲作成した患者さん向けの小冊子



担当者の  
コメント

代表  
柏屋 麻里子 さん

基金21の補助金を受けて広報を充実させたことで、「ピアサポート活動の普及」を進めることができたと同時に、団体としても認知度と患者支援の関係者との連携が向上したことを感じます。また、親身なアドバイスをいただき、団体の運営を見直すきっかけにもなりました。そして、たくさんのチャレンジができた1年は確実に団体の力となっており、これもまた補助金の大きな成果だと考えています。



▲ピアサポート大会の様子  
(2019年1月)

▶ 電話相談



2019年1月には、神奈川県初の「ピアサポート大会」を横浜で開催。約50人が参加し、県内のピアサポートの実情や課題を共有した、意義ある場となりました。

補助金を受けたことで、ツールの充実が広報活動の後押しとなったこと、ピアサポート普及の取り組みにより、患者支援関係者への認知が広がりにつつあることを実感しています。

任意  
団体

ピアサポートよこはま

代表者 代表 柏屋 麻里子

設立 2010年7月

住所 平塚市

活動紹介 がん患者とご家族の不安や悩みを、がん体験者がサポートします。電話や面談での相談活動、ワークショップなど体験者が集うサロンの開催を行っています。



## 子どもも学べるアレルギーワークショップ

NPO法人エーエルサインラボ

(現：NPO法人ピアサポートF.A.cafe)

### 活動

## 患者自身が食物アレルギーと向き合えるように

保育現場や学校現場では多くの職員が、食物アレルギーを学び、対応に尽力してくださっています。また、保護者向けの講演会などの開催も増えてきました。しかし、肝心の食物アレルギー患者の子ども達自身がアレルギーを学ぶ機会や、同じ疾患の友だちに出会える機会は思いのほか少ないままです。なぜなら、小児食物アレルギーは乳児の頃に発症することが多く、大人に守られて生活することが当たり前になってしまっているからです。私達は患児が成長の過

程で、飲食の可否の判断力や誤食時の対応力を身に付けていくことが、たとえ食事の制限があろうとも、彼らの生活や行動の範囲が広がり、より安全で豊かな毎日を送ることに繋がると考えました。そこで、患児が疾患について学べる機会や仲間に出会える場所として、患児自身が参加できる子ども向けワークショップと、保護者が学んで自宅に帰った後に患児と共有できる教材付きの大人向け学習会の2つのタイプで事業を展開しました。

### Check !



#### <事業基本データ>

事業分野 保健、医療又は福祉の増進

実施期間 2018年度

補助金額 計 412千円

## 成果

### ワークショップ実施や 幅広い普及啓発

「子どもも学べるアレルギーワークショップ」を5回、「家庭に持ち帰って患児と共有できるワークシートを活用した保護者向け勉強会」を13回開催しました。仲間に出会える喜び、そして日々自分達が直面している食物アレルギーという疾患への関心の高さと学習意欲を改めて認識し、今後も患児本人が食物アレルギーを学ぶ機会が必要だと感じました。参加者には食物アレルギーの理解度や、誤食時の対応の知識などを調べる調査も行いました。



▲子どもも学べるアレルギーワークショップ

担当者の  
コメント



理事長  
服部 佳苗 さん

事務局長  
生熊 しのぶ さん

かながわ県民活動サポートセンターの皆様には、行き詰まった時や活動の展開に悩んだ時に、何度も真摯に相談に乗っていただきました。沢山の団体の同じような課題をこれまでも見守ってこられたであろうご担当者のアドバイスや視点に、多くのヒントを見出すことが出来ました。本当にありがとうございました。



▲食物アレルギー  
研究会での発表

▶保護者向け勉強会で  
使用したワークシート



また、前述の調査の結果を、第19回食物アレルギー研究会で演題発表しました。どのような患児教育が求められているか、患児が自分たちの疾患をどの程度理解しているか等、患者の立場から専門医らに向けて報告と提案をしました。

さらに、患者やその家族に限らず、広く一般市民に啓発の機会を提供するため、藤沢市保健所(南保健センター)と連携して研修会を開催しました。保育者、調理員、学童クラブ職員など様々な方に参加していただき、増え続ける食物アレルギーへの関心の高さと学習機会の必要性を認識しました。



NPO法人  
エーエルサインラボ  
(現:ピアサポートF.A. cafe)

代表者 理事長 服部 佳苗

設立 2013年10月(現:2018年1月)

住所 〒251-0052 藤沢市藤沢1049  
藤沢市地域ささえあいセンター内

活動紹介 食物アレルギー患者も周りの方々も安心して毎日が送れるような社会になるように、誤食事故予防のサポートツールの制作と食物アレルギーの啓発を展開しています。